

What's New From ASCIKU

2025年度第4回研究会を開催！ 11月29日（土）



2025年度の第4回研究会は、秋晴れの中、関西大学千里山キャンパス 校友・父母会館2階会議室にて開催し、30名の方々にご参加いただきました。開会にあたり、西村会長ならびに先端科学技術推進機構長 鶴田浩章教授からご挨拶をいただいた後、環境都市工学部 楠見晴重特別任命教授より、2024年度学の実化賞受賞記念講演として「京都盆地の地下水適正利用と保全に向けた技術に関する一連の研究」ならびに、システム理工学部長 梶川嘉延教授より、2026年4月から新設されるグリーンエレクトロニクス工学科のご紹介をいただきました。

楠見特別任命教授による研究は、現在まで脈々と受け継がれた古都京都の地下水の大切さとその保全に向けたものであり、また、新学科 グリーンエレクトロニクス工学科もこれからの社会に必須と言える学科であり、参加者の皆様は興味深く耳を傾けておられました。

2024年度 学の実化賞 受賞記念講演

「京都盆地の地下水適正利用と保全に向けた技術に関する一連の研究」

環境都市工学部 特別任命教授 楠見 晴重 氏

本講演では、先生が40年近くかかわってこられた京都の地下水について、京の雅と水とのかかわりや、京都・丹波地方の地形・地質の俯瞰、そして、先生のご専門である岩盤工学研究をベースに取り組みられた結果、東西12km、南北35km、最深部800mの巨大な水盆があり、その賦存量は211億トン（琵琶湖275億トン）にもなることを突き止められたことをご紹介します。

研究の動機は「大きな川が無いのに京都が大都市になったのはなぜ？」と疑問に思われたとのこと。地下水を探し当てるべく、基盤岩形状および地層の調査に取り組み、弾性波探査反射法や重力異常などの先端技術と地道なボーリング調査を丁寧に進めてこられました。



NHKとの共同研究によって、地下形状に関わる情報を一層充実させ、地下水盆の3D化を達成されました。その成果は多くのメディアで紹介され、誰の目にも地下の形状が手に取るようにわかるようになり、とても多くの方にこれまでになかった理解と深い感銘を与えられ、第3回世界水フォーラムでも紹介されました。

現在はAIを利用した観測井水位の予測に取り組み、地下水を安定資源として持続的に使用するために、その成果への期待が益々高まっています（令和2年度文部科学大臣表彰・科学技術賞受賞）。

2026年1月24日（土） 第7回関西大学食文化研究会フォーラム 「日本酒と水のおいしい関係」を開催！

楠見特命教授もパネリストとして参加されます。

灘・伏見のお酒の試飲もあるとのこと。

詳しくは、右記へアクセスしてください。



「新設 グリーンエレクトロニクス工学科について」

システム理工学部長 教授 梶川 嘉延 氏



2026年4月、関西大学システム理工学部に5番目の新しい学科として「グリーンエレクトロニクス工学科（入学定員62名）」が開設されます。資源循環を意識した原料、電力消費量の少ない集積回路設計、その回路を用いたエネルギー効率の高いAIアルゴリズムの開発などを学ぶ日本初の学科となります。

文部科学省によるデジタル・グリーン分野の人材を育成するための大型プロジェクト、「大学・高専機能強化支援事業」初回公募に選定されたことにより実現したのですが、この新しい学科設置に至った背景からシステム理工学部長の梶川嘉延教授よりご説明いただきました。

新学科では、「デバイス・物性」「装置・加工・計測・制御」「アナログ・デジタル集積回路」「数値計算・情報」の4分野を柱とした講義に加え、半導体関連の企業や環境問題の専門家など有識者を招いてのリレー講義、産学連携PBL（課題解決型学習）授業、協定する台湾などの海外大学への短期留学等を通して、世界の産業界で即戦力として活躍できる力を養うことを目指しています。現場で求められる実践的な力を体験型のカリキュラムで高めていくために、設備面では教育目的での「クリーンルーム」を新たに整えます。同学科には産業界との連携カリキュラムが多く組まれていますが、科学技術振興会の会員企業「日本スペリア社」もその一社です。

高橋学長とともに協力企業や協定大学をさらに拡大させる活動は継続され、環境への配慮とデジタル技術の活用の両立をめざす教育・研究は持続可能な社会の実現に大きなインパクトを与えるものと期待されます。



ご報告：第4回研究会アンケート結果について

2025年11月29日（土）に開催されました第4回研究会のアンケートにつきまして、15件の回答をいただきました。

研究会の内容について、「大変参考になった」80%、「参考になった」が20%との回答をいただきました。また、内容については「大変理解しやすかった」67%、「理解しやすかった」33%、研究会の長さについては「ちょうど良い」が80%、「やや短い」「短い」を併せ20%との回答をいただきました。

関心のある技術分野は、「素材・材料」11件、「環境・エネルギー」が9件、「機械・メカトロニクス」「機能素子・デバイス」がそれぞれ7件、「ものづくり・加工」が6件との回答をいただきました。知りたい情報については、「実用化が期待される研究成果」が9件、「研究者の研究内容・専門分野」8件の回答がございました。また、この度の研究会について、「資料もわかりやすかったです。」「新しい話が聞けて良かったです」とのご感想をいただきました。

これらの結果を、今後の研究会活動に反映するよう努めてまいりますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。